

【七月の言葉（令和二年）】

願ってばかりの人生から

「願われていた人生」へ

一般的に、神社・仏閣は私たちの願い事を神仏に聞いてもらう場所であるかのように考えられています。浄土真宗の寺院は違います。むしろ逆に、ご本尊である阿弥陀如来の願い（本願）を私たちの方が聞かせていただく場所なのです。

思いどおりになれば「御利益があった！」と喜び、反対に思いどおりにならないければ「神も仏もあるものか！」と悪態をつくことになる人生には、一安心はあったとしても一生涯の安心は訪れません。

苦悩の原因も知らず、あらゆる方向に救いを求めがちな私たちに、『本物の安心を与えたい』という、見返りを求めない無償の願いが、すでに届けられていたのです。

願われていることに気づけたならば、願ってばかりの神頼み人生からは卒業できます。

あなたもそろそろ目覚めてみませんか？